

今井友乃委員の主な意見

<現状>

- バス停が遠いという声を聞くが、自家用車の便利さに慣れ、バスを使い慣れていないからだと思う。
- 昔の人は、便利さを追い求める時代を生きてきたので、不便になることへの抵抗感が強いと思う。また、60歳代までなら、これまでの習慣が変わることを受け入れやすいと思うが、70歳代以降になると変化を受け入れることが難しくなるように感じる。
- 移動の足も含めて、できる範囲で暮らすという考え方が大切だと思うし、本当に便利さを追求し続けたいといけないのか、一度、立ち止まって考えるべきだと思う。
- この地域は、まだ成長が続いているので、住民の危機感が薄いのだと思う。他県の過疎地域の話を知ると、住民が自分たちで行動を起こさないといけないという危機感が強い。本当に危機になる前に、住民が考えないといけないと思う。

<移動の足の確保策>

- 新しい移動サービスとして、ウーバーみたいな、一般の人にらせてもらうような取組(ライドシェア)がもっと広がれば良いと思う。アメリカではウーバーが大変便利と聞き、知多地域成年後見センターで開催するイベントには、自分で運転できない人は、お友達に頼んで乗せてきてもらう人が多い。
- 一方、既存のタクシーは、来てほしいときに来てくれない現状がある。事前に予約の電話をしても、断られることがよくあると感じる。人手不足などあるのかもしれないが、不便を感じることもある。
- 新しい取組を考える際は、地域で考えていくべきだと思う。瀬戸市の菱野団地の取組は知っているが、こういった良い取組をマネして広げていくのが良いと思う。自分たちで考えた方が楽しいと思うし、特に男性高齢者は、送迎ボランティアなどに向いているのではないかと。
- 県の関わり方としては、立ち上げの時は支援すべきと思う。また、県が成功事例を宣伝して、住民に視察に行ってもらうことも大切と思う。現場で話を聞くことで、住民が自分で行動することにつながると思う。